

1. 形式

- 1) 各パラグラフの 1 行めは 1 字下げをする。
- 2) パラグラフとパラグラフの間にはスペースをいれない。
- 3) 句読点には「、」と「。」を使う。
- 4) 英数字には全角ではなく半角を使う。

2. パラグラフ (論理段落)

- 1) 1 つのパラグラフでは 1 つのトピックについて述べる。
- 2) パラグラフの最初の文はパラグラフのトピックについての述べる要約文にする。
- 3) パラグラフの最初には、必要に応じて、パラグラフを接続する単語をつける。例 : 「したがって、しかしながら、次に、第一に、最後に、」
- 4) パラグラフの一般的構成は、要約文・支える文・まとめる文の 3 部構成である。例 : 「インドネシアは世界最大のイスラーム信徒の国である。中国、インド、アメリカに次ぐ世界第 4 位の人口 2 億 4 千万人のうち 88% がムスリムであるとされている。このことはインドネシアの文化や政治を考えていく上で大変に重要なポイントである。」

3. 構成

- 1) 前要素・本体・後要素の 3 部構成とする。
- 2) 前要素には扉、目次など、後要素には註、参考文献一覧が含まれる。
- 3) 扉 (レポート、小論文の場合は表紙と同じ) には、題目、著者名、著者の所属、学生番号、授業科目、提出年月日などの情報を表示する。
- 4) 本体は論文の中心部分で、序論・本論・結論の 3 部構成とする。
- 5) 序論は「はじめに」、本論は「第 1 章、第 2 章...」、結論は「おわりに」とする。
- 6) 本論の各章は、節にわけて、「1.1、1.2、1.3...」とする。

4. 参考文献一覧

- 1) 論文の末尾に参考文献一覧をつける。
- 2) 参考文献一覧には、論文作成に参照したすべての文献 (書籍・論文・記事・ウェブサイトなど) の書誌情報を掲載する。
- 3) 参考文献一覧の文献は一定の順序で並べる (日本語の場合は五十音順が一般的)。

5. 本文中の文献の参照

- 1) 論文作成に参考にした文献は、本文中で参照 (要約、「短い引用」、「長い引用」) し、参考文献一覧に文献の書誌情報を掲載する。
- 2) 本文中での参照は、文末の句読点の前に、丸括弧の中に入れて、著者名 (苗字のみ)、刊行年、頁 (必要な場合) の順に表示する。例「...と推測されている (山田、2010: 150-152)。」

6. 註

- 1) 論文の中心的議論には含まれないが、理解を助ける情報は、註にする。
- 2) 簡単な註は、本文中で、丸括弧の中に入れて簡潔に記載する。例 : 「スカルノ大統領 (在位 1945 年-67 年)」
- 3) 長い註が必要な場合には、文末の句読点のあとに、上付で丸括弧内の通し番号を表示し、結論のあとに、註をまとめてつける。例 : 「...と推測されている。⁽¹⁾」

7. 図・表

- 1) 図 (写真、グラフ、地図など) の説明は図の下、表の説明は表の上につける。
- 2) 図・表が複数ある場合には、「図 1」「表 1」のように通し番号をつける。